

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および4月22日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は岩手県に高度リハビリテーションを提供する使命を受け、1993年に開院された。以来、公設民営のリハビリテーション専門病院として病床規模を拡大し発展を遂げてこられた。臨床においても質の高い医療を提供され続け、2006年に病院機能評価を受審され、以後の更新も継続されている。また、さらに質の高いリハビリテーション医療を提供するべく、2007年には病院機能評価（付加機能：リハビリテーション）を受審され、継続的な取り組みがある。

今回の審査においても、医療の質向上に主体的に取り組んでいる姿勢が具体的に現れているものを多数確認した。一方で、今後さらなる取り組みが期待されるものについては、引き続き全職員が一丸となって検討され、今後の貴院の一層の発展に繋がることを祈念したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念、基本方針はセンター設立時に県の条例として制定されており明確である。充実したリハビリテーション・ケアを提供できる職員を配置し、医師はリハビリテーション科専門医4名はじめ計6名在籍し、リハビリテーション科専門医が全ての病棟でサポートできる体制となっている。サブスペシャリティとして、神経内科、脳神経外科、整形外科専門医も複数擁しており評価できる。また、療法士は回復期セラピストマネージャーが9名在籍しリーダーシップを発揮している。

医療安全、急変時に対する取り組みは適切であり、療養環境も障害に配慮され適切である。各種データは一括管理され、各種会議で情報共有されており、ホームページでも公表されている。患者をフォローアップする体制も整備されている。回復

期リハビリテーション病棟運営における課題は、センター長をはじめとする各部門の管理職等により構成される運営連絡会議で検討されている。なお、一般職員からの提案がボトムアップとして取り入れられる仕組みについても検討されるとさらに良い。回復期リハビリテーションに関する教育・研修も適切に行われている。急性期病院や退院後の介護サービス事業者との連携は円滑に行われている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

回復期リハビリテーション病棟に配属される医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士などは専門的な役割・機能を発揮し、患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている。チーム医療の実践にも適切に関与している。また、それぞれの職種は質向上に向けた活動として、自己研鑽、研修活動にも適切に取り組んでいる。医師は多職種と十分にコミュニケーションをとりながらリーダーシップを適切に発揮している。

回復期リハビリテーション病棟に特化したマニュアルが整備され、看護・介護の各業務分掌と業務範囲は明確になっている。看護師は、ICF に基づいた入院時看護データベースシートを作成している。今後は、全患者において ICF の視点での障害像の把握と評価が継続されるとなお良い。また、フロア内での自主訓練やレクリエーションを活性化し、療法士と協働して余暇活動を一層向上させる取り組みに期待したい。

療法士は各マニュアルが整備され、各役割・専門性を適切に発揮している。作業療法においてはドライブシュミレーター2機を備え、公安委員会や地元の免許センターと連携し、実車への支援体制を構築している。2021 年度実績は入院患者 200 名程度に活用し、実車へ結びつけた事例が年度ごとに増加傾向にあるなど、取り組みは高く評価したい。実生活への関与については、早出・遅出勤務のさらなる充実を期待したい。

社会福祉士・管理栄養士は多職種と協働しながら、適切に専門性を発揮している。社会福祉士は入院時より詳細な経過記録や報告書を作成しており評価できる。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日の主治医の診察に関連職種が同席し、心身機能や ADL の状態など初期評価を実施している。主治医のリハビリテーション処方後に同日リハビリテーションが開始され、各療法士による詳細な初期評価と治療訓練が開始される。入院日の夕方には入院時カンファレンスが開催されている。療法士はリハビリテーション計画、看護師は看護計画を立案し、定期的な評価と修正を行い、医師が説明し同意を得ている。目標設定カンファレンスで患者・家族の要望を反映した目標・ゴールを設定し詳細な方針が決定されており適切である。

患者固有のリスクや、入浴・検査等のスケジュールに関しては、スタッフステーション内のナースコール端末に表示され、多職種で情報共有情報しやすい仕組みがある。また、モーニング・イブニングケアの時間帯は早出・遅出勤務を導入している。全患者に対して、2 週間ごとに目標設定カンファレンスを行い、月 1 回のスタ

ップミーティングに臨んでいる。カンファレンスでは、医師のリーダーシップのもとそれぞれの職種が専門的視点からゴール設定、退院計画の修正等を検討されている。なお、今後は報告のみでなく、具体的な課題について多職種で議論し方針決定が図られるとなお良い。

入院時より自宅復帰に向けた課題と、住宅環境の情報収集が行われている。夜間を想定した退院支援では、患者と同室で家族が宿泊できる個室を有効に活用している。試験外泊では、外泊時の確認ポイントを整理した外泊シートを用いて自宅生活での課題の洗い出しを行っている。遠方も含めた自宅訪問も実施しており、評価できる。明確となった自宅復帰課題はカンファレンスにて共有され、各担当者により解決に向けた取り組みがなされている。退院後の介護サービスについては生活期の担当者と連携し、家屋改修や福祉用具を外泊訓練で確認し、円滑に生活できるよう検討する仕組みがある。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	II
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	II
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	II
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	II
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	II
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	II
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	I
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	II
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	II

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	II
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	II
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	II
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	II
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	II
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	II